

平成25年度
網走南部署斜里地区 鳥獣被害対策
エゾシカ捕獲事業 第1号その1

報告書



平成26年6月

北海道森林管理局

目次

1. はじめに	1
2. 事業実施場所および工程	1
3. 囲いワナの構造および捕獲方法	5
4. 事業実施結果	13
5. 考察	16
6. 希少猛禽類研究者との現地検討会	19
7. 付録：現場作業の実施状況・記録写真	20

1. はじめに

知床半島にはエゾシカが高密度で生息しており、世界自然遺産登録後はエゾシカの採食圧による環境への悪影響を緩和すべく、知床世界自然遺産地域科学委員会のエゾシカ・陸上生態系ワーキンググループにおける議論を受けて、各行政機関が個体数調整事業を半島内各地で実施している。

本事業は、知床半島における高密度のエゾシカ生息による森林被害等の採食圧の低減を図り、原始的な生態系を維持または回復させるため、囲いワナによるエゾシカ生体捕獲を実施し、個体数の調整を図るとともに、当該地域におけるエゾシカ生息数等を把握し、今後の管理計画等に資することを目的として実施した。

2. 事業実施場所および工程

本事業で捕獲施設として使用した囲いワナは、知床半島の西側に位置する北海道斜里郡斜里町ウトロ東番外地（網走南部森林管理署 1377 林班サ小班；国設知床野営場の隣接地、標高約 60 m 地点）に、平成 25（2013）年 12 月下旬に本事業とは別事業である「平成 25 年度知床ウトロ地区エゾシカ捕獲事業（囲いワナ）」で既に設置されていたものである（図 1-2）。ワナの設置地点は国指定鳥獣保護区内であり、一般ハンターによる狩猟はまったく行われていない。また国立公園区域から約 1.3 km 離れているため、国立公園内で展開されている環境省のエゾシカ捕獲事業の対象地域からも従来は外れていたエリアである。

仕様書に従い、先ず囲いワナの改良工事を行った。すなわち、自動捕獲装置用落とし扉を平成 26 年（2014 年）4 月 17 日に移設し（写真 1）、移設前はウトロ市街地防鹿熊柵（図 3、斜里町設置）の外側にいるエゾシカを捕獲対象としていたのに対し、移設後は防鹿熊柵内のウトロ市街地に侵入・定着しているエゾシカが捕獲対象となるようにした。落とし扉の移設工事は、当該囲いワナの作設業者である斜里建設工業株式会社に知床財団が依頼した。

事業着手前に提出した事業計画書に記載したとおり、囲いワナ付近に誘引されたエゾシカによってヒグマが副次的に誘引されるリスクを低減するため、ウトロ市街地防鹿熊柵に付帯的に敷設されている電気柵の通電が、ウトロ沢に沿った区間（図 3 の A・B 区間：延長約 1.3 km）において 4 月 26 日に開始されるまで、囲いワナの落とし扉の開放や周辺への餌まき誘引作業の開始は見送った。そのため、柵沿いの融雪が今春は大幅に遅れた影響を受け、落とし扉の開放が 4 月 27 日、餌まき誘引作業の開始は 4 月 28 日となった。なお、囲いワナ周辺へのエゾシカの出現やワナ内部への出入りは確認されていなかったが、5 月 1 日より捕獲待機体制に入った。捕獲待機体制は 5 月 30 日に完了した。

表1. 本事業の実施工程

項目	4月		5月			6月	
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
囲いワナ改良	↔						
餌付け誘引		←	→	→	→		
生息状況調査	←	→	→	→	→	→	
ワナの点検・メンテナンス	←	→	→	→	→	→	
生体捕獲・運搬			←	→	→	→	
ブルーシート撤去							↔
報告書作成				←	→	→	

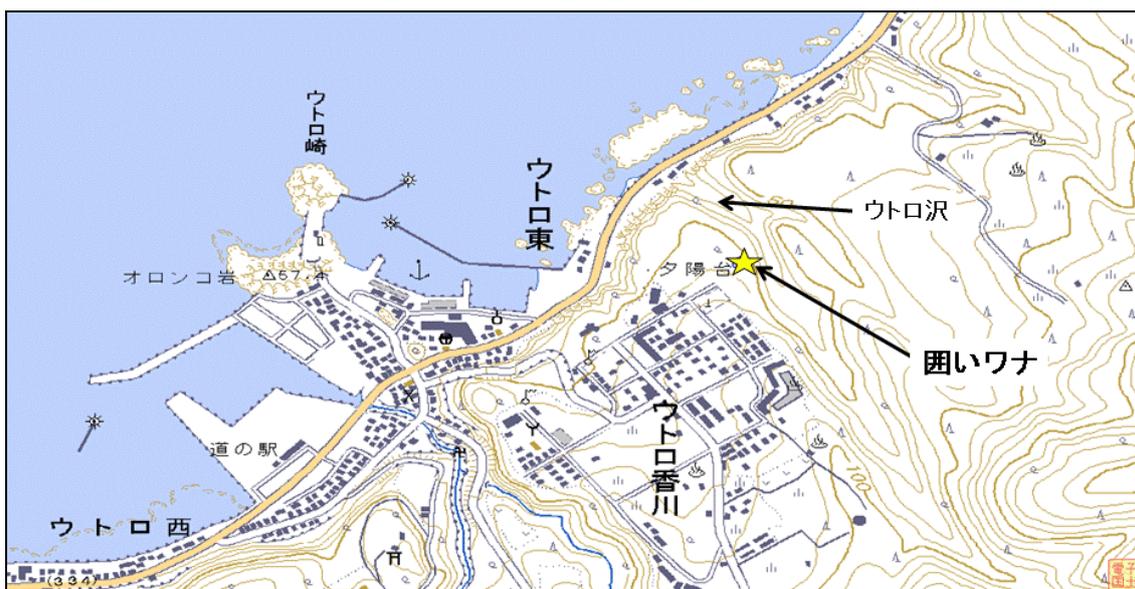


図1. 本事業における囲いワナの設置地点（星印）.

（この背景地図等データは、国土地理院の電子国土 Web システムから提供されたものである）

網走南部署斜里地区鳥獣被害対策エゾシカ捕獲事業第1号 位置図



図2. 本事業における囲いワナの設置位置図 (仕様書より).



写真 1. 改良工事による移設後の自動捕獲装置用落とし扉の外観.

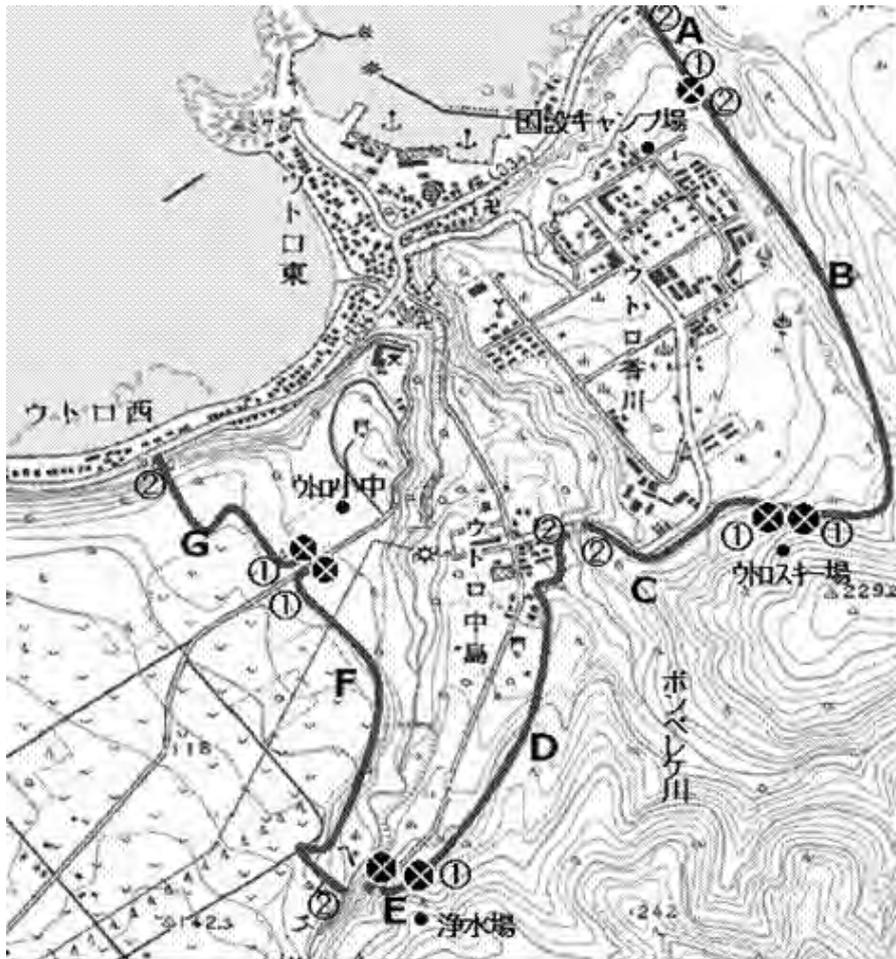


図 3. ウトロ市街地防鹿熊柵の概要. 図中の A~B 区間がウトロ沢沿いの区間.

3. 囲いワナの構造および捕獲方法

3-1. 囲いワナの構造

本事業に使用した囲いワナは、周囲長 56.4 m (囲い込み部+追い込み部)、面積 104.1 m² (同左) であり、囲い込み部、追い込み部、および仕分け部 (雌雄の仕分けおよび搬出用輸送箱への収容頭数を調整するための暗箱 6 部屋) の 3 部分から構成されている (図 4)。その他、囲いワナの詳細な構造や作設に使用した資機材一覧については、「平成 25 年度知床ウトロ地区エゾシカ捕獲事業 (囲いワナ)」の業務報告書 (北海道森林管理局, 2014) を参照されたい。

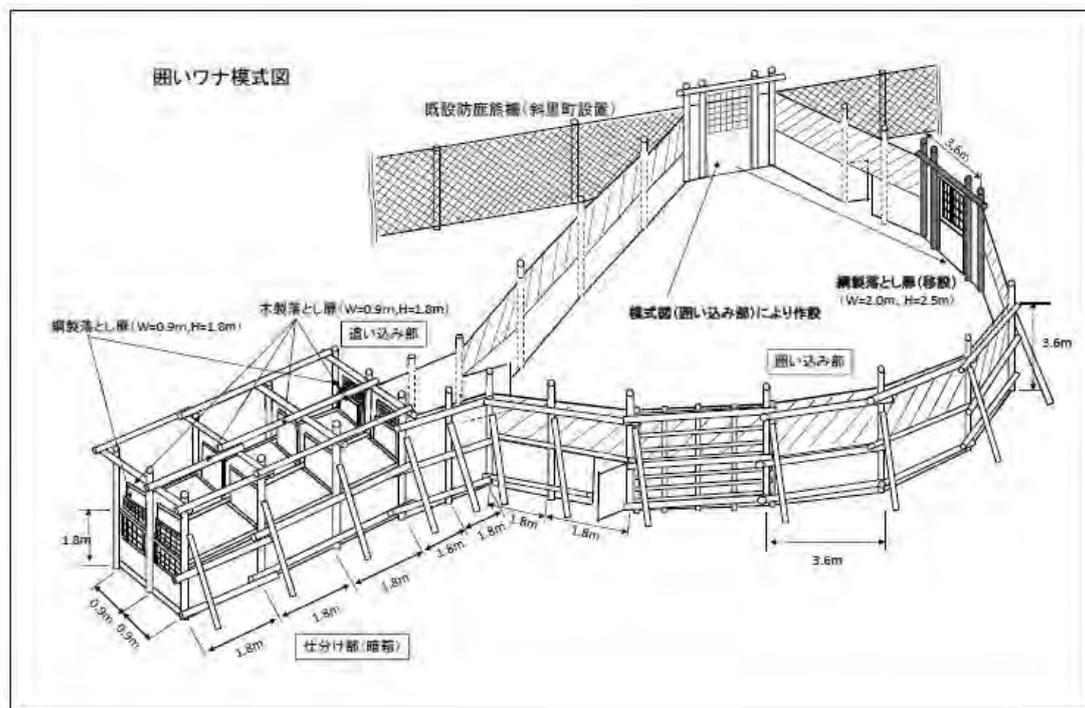


図 4. 本事業で使用した囲いワナの模式図（仕様書より）.

3-2. 誘引および捕獲の方法

ワナ周辺およびワナ内部へエゾシカを誘引するための餌には、畜産用の牧草ロールおよび乾草ブロック（ルーサンヘイベール）を当初用いた。しかし4月30日頃から急速に進行した柔らかいイネ科草本の芽吹きに伴い、上記の硬い干し草系（牧草系）の飼料のみではエゾシカの誘引力が顕著に低下することが容易に予想されたため、5月には柔らかい若葉の付いているヤナギ類およびハンノキ類の横枝や、エゾシカが好んで食べるためにウトロや羅臼の市街地で食害の多い園芸植物であるチューリップの造花（視覚的な誘引を期待）をワナ内等に設置することも試行した。それぞれの種類の餌まき誘引のスケジュールは下記のとおりである。

4月28日に囲いワナの新しい落とし扉付近およびワナ周辺に牧草ロールを設置（移設）し、餌まき誘引を開始した。4月29日、5月1日および5月5日には乾草ブロックをほぐしたものをワナ内外、キャンプ場敷地内、および自然教育研修所付近（図5、写真2）にまいた。5月11日にチューリップの造花計15本をワナ内に設置し、落とし扉の外側から視認可能な状態にした（写真3）。5月13日にはヤナギ類、5月21日にはハンノキ類の若葉の付いた横枝（ウトロ地区内で入手、各ピックアップトラック荷台1台分）を運び、ワナ周辺およびワナ内に配置した（写真4）。5月20日には、防鹿熊柵に沿って山側から海側へ移

動してきたエゾシカが囲いワナの入口へ接近しやすいようにするため、細長く帯状にササ刈りを行った（写真5）。



図5. 囲いワナ周辺以外の餌まき誘引の実施地点（黄色点）。



写真 2. エゾシカ誘引のために自然教育研修所の海側に設置した乾草ブロック.



写真 3. エゾシカの視覚的誘引のために囲いワナ内に設置したチューリップの造花.



写真 4. エゾシカ誘引のために設置したヤナギ類の横枝.



写真 5. エゾシカ誘引のために実施した落とし扉付近の帯状のササ刈り.

ワナ内へ誘引したエゾシカの捕獲（落とし扉の落下による囲い込み部への閉じ込め）には、自動捕獲装置を利用することとした（北海道森林管理局, 2014）。捕獲見込頭数は、5月1～4日は2～3頭、5月5～30日は1～2頭に設定した。

また5月30日の午前には、知床財団の職員および関係者30名と知床森林生態系保全センター職員8名の計38名による、エゾシカの追い込み捕獲を試みた。参加者にはA～Tの20地点が記入された地図（図6）を配布し、業務無線で連絡を取り合いながら囲いワナのある北東方向へ連携してエゾシカを追い込むようにした。囲いワナの入口（落とし扉）付近には、入口へとエゾシカを誘導するための網を実施直前に設置した（写真6）。



写真6. 追い込み時にエゾシカを囲いワナ入口へと誘導する目的で設置した網.



図 6. 大人数による追い込み捕獲の実施時に使用した地図. A～Tは無線連絡の際の目安となる地点、星印は実施日前日までの分布状況調査の結果から、エゾシカの群れがいる可能性が高い地点を示している。

3-3. ウトロ市街地柵内のエゾシカ分布状況調査

囲いワナまでのエゾシカの誘引または追い込み捕獲作業実施時の参考とするため、ウトロ市街地防鹿柵内のエリア、特にウトロ香川地区におけるエゾシカの分布および頭数等の調査を、本事業の実施期間中に計 10 回実施した。調査時は私有地を除く極力すべての道路を車両で低速走行し、死角の多い場所では降車して徒歩で斜面等も覗きながらエゾシカを探した。エゾシカ発見時は発見時刻、位置、性別、移動方向等を記録した。

なお上記調査の補助および誘引状況の確認のため、自動撮影カメラ 1 台（機種名：Ltl Acorn 5210A）を自然教育研修所（図 5）海側の台地辺縁のシカ道沿いに（写真 7）、さらに 1 台（Ltl Acorn 6210MC）を囲いワナ外部の落とし扉周辺を見渡せる位置に設置した。



写真 7. 自然教育研修所海側のシカ道沿いに設置した自動撮影カメラ（円内）.
黄色ラインがシカ道.

4. 事業実施結果

本事業期間中に、自動捕獲装置によって捕獲されたエゾシカはいなかった。一方、5月30日に大人数で実施した追い込み捕獲では、囲いワナの外壁とウトロ市街地防鹿熊柵との間の狭い隙間へ一旦追い込み、人用の扉から囲いワナ内部へと誘導することにより、メス成獣1頭を囲いワナを利用して捕獲することに成功した（写真8）。当該捕獲個体は、その日のうちに（株）知床エゾシカファームへ搬出した。

本事業期間中においては、囲いワナの落とし扉周辺でエゾシカが自動撮影されることが皆無であった。自動捕獲装置のセンサーによる記録でも、エゾシカの囲いワナ内部への進入は一度も確認されなかった。

囲いワナが設置されている国設キャンプ場の敷地内におけるエゾシカの見撃記録についてみても、落とし扉を開放した4月27日以降にエゾシカが見撃されたのは、5月13日14:37の6頭のみであり、これらの個体も囲いワナには接近せず（写真9）、そのまま海側の急斜面の方へと通過した。

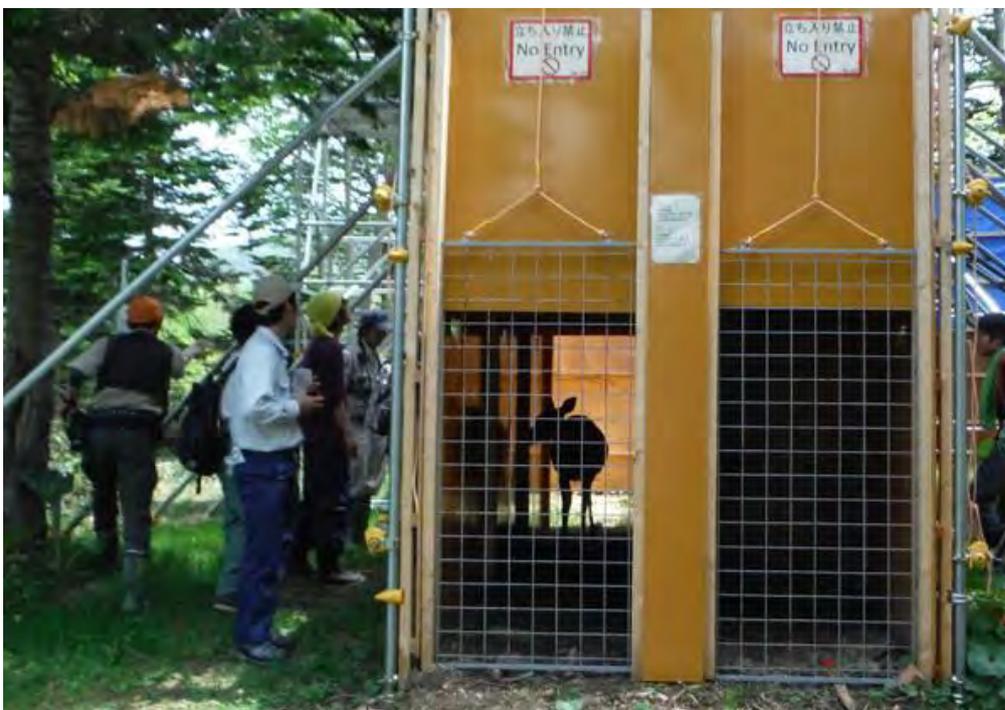


写真8. 大人数による追い込みにより捕獲され、囲いワナの暗箱部に収容されたメス成獣（5月30日）。



写真 9. 本事業期間の日中に国設キャンプ場敷地内において知床財団職員によって目撃された唯一のエゾシカの群れ（5月13日午後撮影）。囲いワナ（右奥の画角外にある）にはまったく接近せずに左方（海側）へと通過。

囲いワナから約 350 m 南西の位置にある自然教育研修所海側の自動撮影カメラ（4月29日～設置）には、5月1～6日の早朝や夜間には毎日エゾシカが撮影され、最大8頭が同時に写り込んでいた。これらの個体は誘引用にまいてあった乾草ブロックを採食している様子が撮影されていたが（写真10）、採食量はごく少量であり、大部分の餌はそのまま残されていた。さらに5月7日以降は、上記の自動撮影カメラによる撮影頻度は数日に1度となった。なお、カメラ周辺における餌まきは4月29日、5月1日および同5日に実施していたが、日中の餌まき時には周囲にエゾシカの姿が無かった。そのため、人間の姿および人間の発する音と餌（乾草）の存在とを関連づけてエゾシカに学習させることはできなかった。

分布状況調査では、囲いワナから約 500 m 南側の「足湯シリエトク」付近（図5、写真11）においてエゾシカの群れが確認されることが多く（5月15、19、26日）、最大確認頭数は5月26日の12頭であった。左記12頭の内訳は、袋角オス成獣1頭、メス成獣8頭、0歳3頭であった。なお、袋角状態のオス成獣は、別の日の調査時（5月15、28日）には同時に2頭が確認された。メス成獣と0歳の同時最大確認頭数は5月26日の8頭および3頭であった。



写真 10. 早朝に誘引用の乾草ブロックを少量採食しているエゾシカ
(5月4日 AM5:30 に自然教育研修所の海側にて自動撮影).



写真 11. 囲いワナから約 500m 南側の、建物が多いエリアにある足湯シリエトクで休息・
採食しているエゾシカの群れ (5月15日 14:08 撮影).

5. 考察（効率的な捕獲方法等に関して）

春期においては、餌によるエゾシカの囲いワナへの誘引は、融雪の進行状況等の自然条件に左右されることが多い。本事業においては上記のような自然条件に加え、社会的条件も加わったため、非常に苦慮した。誘引がおもわしくなかった最大の原因としては、ウトロ市街地を防衛するヒグマ対策用電気柵の通電開始を待ってから、4月末にエゾシカの誘引を開始したことが挙げられる。今年はエゾシカの嗜好性が高いイネ科草本が4月末から急速に芽吹いたことが確認されており、乾草による誘引力が誘引の開始時期とほぼ同時に著しく低下してしまったと考えられた。ただし、電気柵の通電前にエゾシカを国設キャンプ場の囲いワナ付近に誘引した場合、積極的にエゾシカを捕食しようと狙っている冬眠明け直後のヒグマを、ウトロ市街地内へ誘引してしまう可能性がある。地域住民等の安全確保よりもエゾシカの捕獲効率を優先して、電気柵通電前の早い時期から餌まき誘引を開始することは、現実的には不可能である。昨年のように4月の融雪が早くから始まっていれば、4月上旬に電気柵の通電が完了した状態で餌まき誘引を開始できた可能性もあったが、今年の融雪の進行状況（図7）では、餌まき誘引の開始時期が4月末になってしまったことは不可避であったと考える。

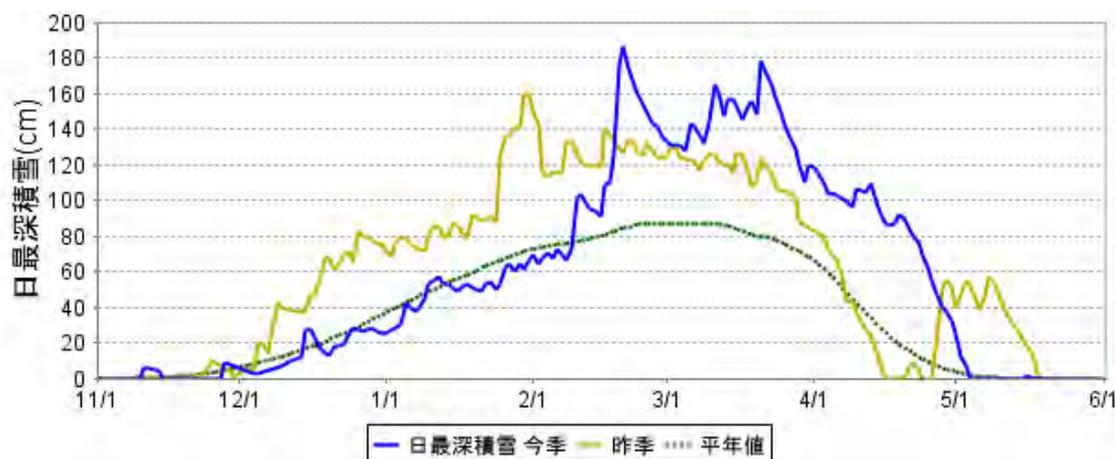


図7. 斜里町ウトロ地区における2012年度および2013年度冬季の積雪深の変化
(気象庁札幌管区气象台ホームページ :

<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/tenki/kansoku/snow/snowmap/index.html>) .

誘引力が低下した牧草ロールや乾草ブロックの代替品として、ヤナギ類やハンノキ類の若葉が付いた横枝や、チューリップの造花を設置することによる誘引も試行した。しかしこれらの餌を置いた囲いワナの内部や周辺にエゾシカがまったく近寄らなかったため、こ

れらによる誘引効果を本事業では検証することはできなかった。周囲に建物が多い「足湯シリエトク」付近に分布していたエゾシカの群れを囲いワナ付近まで誘引する方法としては、バケツやソリ等の容器に、夏期でもエゾシカの誘引が可能な(鈴木正嗣岐阜大学教授、私信) 圧扁トウモロコシ等の穀物系飼料を入れ、点々と道路沿いに容器を置く案が考えられた。しかし圧扁トウモロコシはカラス等の鳥類や犬猫、タヌキ、キツネ等、エゾシカ以外の鳥獣の嗜好性も高いことが過去の環境省事業等で確認されており、道路沿いでこれらの動物が餌づいている状況が地域住民や観光客の目に触れることは好ましくない。そのため、本事業においては当案の実施は見送った。

結局、ヒグマの出没状況を気にしながら、乾草ブロックやヘイキューブ等の乾牧草系飼料を使用する以外に選択肢がない状況では、囲いワナによるエゾシカの捕獲は、12月中旬～3月下旬の積雪期以外の時期には実施困難と考えるべきである。ウトロ市街地に定着しているエゾシカの捕獲を進めるためには、上記を前提に国設キャンプ場以外の他の場所にも囲いワナを設置する、あるいは他の捕獲手法を組み合わせる等の検討が必要である。

新たな囲いワナ設置場所の候補としては、既に知床森林生態系保全センターが検討を進めている、斜里町役場ウトロ支所の海側の平坦地(国有林)が考えられる。2014年3月15日の日没直前の35分間に、ウトロ駐在前～幌別川河口の国道沿いで実施した徒歩によるエゾシカカウント調査では、上記候補地の目前である香川坂南側の斜面の林内に8頭のエゾシカが確認され、自然教育研修所～国設キャンプ場の斜面においては10頭が確認されている(知床財団、未発表)。また、本事業による5月28日の痕跡調査においても、越冬期のササの採食痕や糞が大量に香川坂南側の斜面林内で発見されている。これらより、少なくとも平成25(2013)年度冬季には、複数のエゾシカが上記候補地付近に定着・越冬していたと推測され、次の冬季の捕獲が期待できる。なお、積雪期のエゾシカは海に面した低標高の急斜面付近や川沿いにある針葉樹林に集まるため、上記以外の新たな囲いワナ設置適地は、ウトロ市街地内にはほとんど無いと考えられる。

囲いワナ以外の捕獲手法としては、積雪期のくくりワナが第一に考えられる。囲いワナよりも機動性があり、エゾシカの行動圏の変化に応じて設置場所を迅速に変更できる利点がある。捕獲個体の止め刺し技術が通常は問題となるが、知床財団には過去～現在の環境省および羅臼町からの受託事業を通じて、刃物や電気屠殺器を用いた止め刺し技術が現役職員に蓄積されている。ただし、刃物による止め刺しは捕獲場所における大量出血が、電気による止め刺しは実施者の安全確保および有効活用後の肉質がやや問題となる。くくりワナには錯誤捕獲(外飼いの猫、放し飼いの犬、タヌキ、キツネ等)の問題もあるため、囲いワナ以上に地域住民への周知および飼育動物の管理徹底の要請が必要である。

本事業でも捕獲許可期間最終日の前日に 1 回のみ実施した追い込み捕獲は、これまでもウトロ市街地内において自治会や斜里町役場主導で繰り返し実施されており、エゾシカの警戒心の高まりから、最近では捕獲頭数より逃走頭数の方がはるかに多くなっている。本事業で 5 月 30 日に実施した際も、捕獲成功 1 頭に対し、逃走個体が 6~10 頭以上であった。したがって追い込み捕獲は、現在のウトロ市街地においては効率的な捕獲手法とは言い難い。

また、ウトロ市街地へ侵入・定着するエゾシカの主な供給源となっているウトロ東地区においても、供給源を断つためのエゾシカ捕獲をさらに進める必要がある。前述の 3 月 15 日の調査ではウトロ沢右岸~幌別川河口（左岸）において計 52 頭のエゾシカが発見されており（知床財団, 未発表）、3 月 13 日にも同 15 日の調査の半分の区間において計 39 頭が確認されている（北海道森林管理局, 2014）。ウトロ東地区における実際の越冬個体数は、当然上記を大幅に上回っていると推測される。これらの越冬群の捕獲効率アップのためには、国設キャンプ場囲いワナのさらなる改良と、旧しれとこ自然村付近での積雪期の定着防止を目的とした定期的な攪乱が必要と考えられる。

前者の案については、「平成 25 年度知床ウトロ地区エゾシカ捕獲事業（囲いワナ）」の報告書（北海道森林管理局, 2014）で指摘された項目の他には、やはり知床森林生態系保全センターが既に検討を進めている、ワナの囲い部をウトロ市街地防鹿熊柵のラインよりも大きくウトロ沢側へはみ出させることが挙げられる。ウトロ沢付近で毎年越冬している個体は、電気柵の位置を学習している可能性があり、そのことが 2014 年 1~3 月に国設キャンプ場の囲いワナによる捕獲効率が予想を大きく下回った結果に影響したとも考えられるためである。実際、初めて電気柵を設置した場所においては、付近に生息するエゾシカが電気柵の危険性を十分認識するまでの期間に、電気柵に絡まって死亡する事故が過去に何度も発生している（知床財団, 未発表）。これは逆に、電気柵について学習したエゾシカは、たとえ通電していない電気柵であっても、その設置ラインまで不用意に接近しない可能性を示唆している。

後者（定期的攪乱）の具体的実施案としては、旧しれとこ自然村からウトロ沢方向へ、海岸台地上を少なくとも当初は 2~3 日に一度程度（※）の頻度で人間および犬が歩くことにより、エゾシカの休息場所をウトロ沢寄りにシフトさせることが考えられる。

いずれにしても、ウトロ市街地柵内およびウトロ東地区のエゾシカの捕獲手法について、来たる冬季までの間に引き続き検討と準備を進めていく必要がある。

※攪乱の実施頻度については、亀井ら（2013）による GPS 首輪装着個体の攪乱後の帰還日数に関するデータを参考とした。

亀井利活・柳川洋二郎・中村大輔・小林恒平・近藤誠司・秦寛・鈴木正嗣 2013. 誘引狙撃法のシカに対するスレ防止効果の検証. 第 29 回日本霊長類学会・日本哺乳類学会 2013 年度合同大会 ポスター発表 (P-132).

6. 希少猛禽類研究者との現地検討会

仕様書に従い、平成 26 年度冬期以降に北海道森林管理局がエゾシカ捕獲事業の実施を計画している地点等における現地検討会を、5 月 20 日（火）および 6 月 6 日（金）の計 2 回実施した。本検討会にはシマフクロウやオジロワシの研究者 4 名が参加した。

付録：現場作業の実施状況・記録写真

平成 26 (2014)
年

4 月 17 日 (木)

9:00-14:00

計 3 名

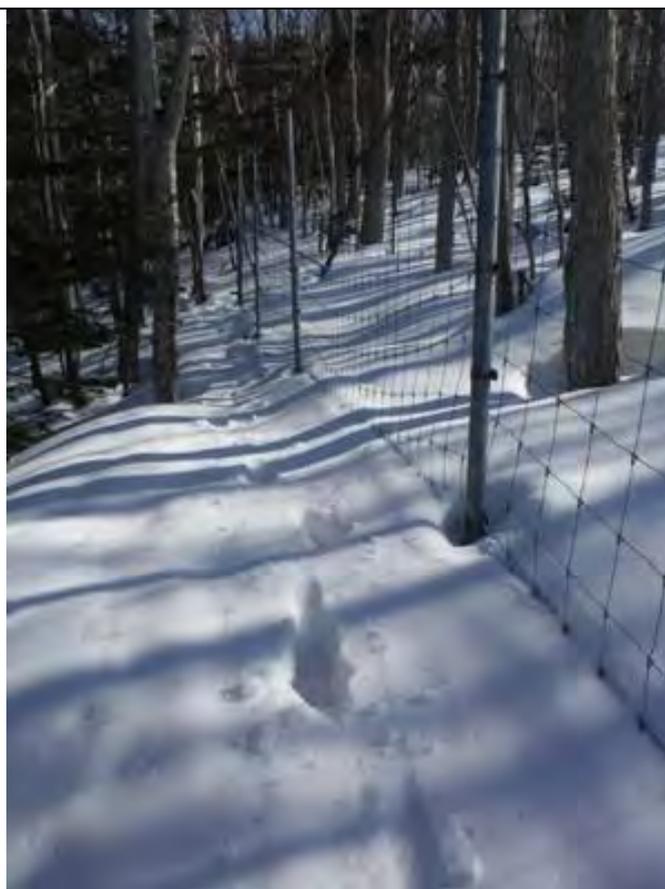


・自動捕獲装置用落とし扉および人用扉の移設作業
(写真：作業完了の確認時)

4 月 20 日 (日)

13:30-15:30

計 2 名



・ウトロ市街地防鹿熊柵附属電柵のウトロ沢沿いの積雪下埋没状況の確認、一部電柵ラインの掘り出し
・柵沿いのシカ・クマ痕跡調査

4月 24日 (木)

10:30-12:00

1名



・ 罝いワナ周辺のシカ痕跡調査

※ウトロ沢沿いの防鹿熊柵付属電気柵の通電が未了のため、罝いワナの落とし扉は閉鎖したままの状態 (未開放)。

4月 27日 (日)

14:00-17:00

計 2名



- ・自動捕獲装置本体等の取り付け作業
- ・誘引のため落とし扉を開放 (安全用金具で固定)

※4/26にウトロ沢沿い区間のヒグマ対策用電気柵(約1.3 km)の通電が開始されたため、囲いワナ付近へのエゾシカの誘引が可能となった。

4月 28日(月)

13:40-16:20

計 3名



- ・自動捕獲装置のセンサー等取り付け作業
- ・自動捕獲装置の稼働開始（捕獲頭数は 18-20 頭と多めに設定。囲いワナへの出入りに慣れさせる馴化モード）
- ・3 月末までの柵外捕獲で残っていた牧草ロール（ウトロ市街地防鹿熊柵内側の柵沿い、ワナよりも海側）約 150kg をすべてほぐし、新しい落とし

扉の位置に合わせて周辺に移設（餌まき誘引の実質的開始）
・キャンプ場～香川坂の餌まき可能コースの確認。

4月 29日（火）

16:30-18:00

1名





- ・餌まき誘引作業（キャンプ場内～自然教育研修所周辺）
 - ・調査補助用自動撮影カメラ設置（研修所うら）
 - ・自動捕獲装置のセンサーエラー修正
- ※研修所付近でメス4頭目視（17:50）

5月1日（木）

15:30-16:30
17:30-18:00

2名



- ・餌まき誘引作業（囲いワナ周辺および研修所うら）
- ・自動捕獲装置の設定変更、捕獲待機状態開始（2-3頭のワナ内への進入で扉が自動落下する設定）



※4/30 より地面のイネ科草本の芽吹きが急速に進行。乾草によるエゾシカの囲いワナへの誘引がさらに困難になった。

5月5日
(月・祝)

11:30-12:30

2名



- ・餌まき誘引作業 (囲いワナ周辺)
- ・調査補助用自動撮影カメラ追加設置 (囲いワナ落とし扉付近)
- ・既設自動撮影カメラのメンテナンス、SDカード交換
- ・自動捕獲装置の設定変更 (1-2頭の進入で捕獲する設定に変更)

5月6日
(火・祝)

9:00-12:40

2名



・ウトロ市街地防鹿熊柵内エゾシカ分布調査

※シカ目視0頭。

シカの新しい食痕(ギョウジャニンニクなど)をウトロ中島の神社付近の柵沿い(内側)で確認。

5月11日(日)

13:30-15:00

1名





- ・視覚による誘引用の造花チューリップ 15 本を囲いワナ内部に設置
- ・自動撮影カメラの SD カード交換
- ・自動捕獲装置のエラー修正、再稼働
- ・町役場ウトロ支所付近調査（森林管理局監督職員同行）

5月13日(火)

10:30-13:00

1名





- ・餌まき誘引作業
 (キャンプ場内およびウトロ林道にて森林管理局職員が枝払いしたヤナギ類の枝を囲いワナ周辺まで運搬、ワナ内外に配置。
- ・自動捕獲装置のメンテナンス

※キャンプ場敷地内では日中のシカ目撃情報が本事業開始後しばらくなかったが、5/13の14:37にエゾシカ計6頭の群れが墓地からキャンプ場敷地内に入り、囲いワナ方向へは行かず、そのまま海側の崖へ下りていく状況を、電気柵作業中の当財団(知床財団)職員が目撃した。

※研修所うら～林野庁官舎付近では5/13以前にも最大6頭のシカ目撃情報あり(自動撮影カメラにも同時最大8頭の写り込みあり)

<p>5月15日(木)</p> <p>13:50-15:30</p> <p>1名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動撮影カメラのメンテナンス ・ウトロ市街地防鹿熊柵内エゾシカ分布調査
--	---



※シカ目視計 11 頭（オス袋角 2 頭、メス成獣 8 頭、0 歳 1 頭）。
足湯シリエトク → ホテル知床付近の草地へと移動



5月19日
(月)

15:30-17:00

2名

- ・ 罠いワナ周辺の痕跡確認
- ・ 自動捕獲装置のメンテナンス（再起動、再設定、再稼働）
- ・ 自動撮影カメラのSDカード交換
- ・ ウトロ市街地防鹿熊柵内エゾシカ分布調査

※調査中のシカ目撃0頭。

ただし同日12:00に電気柵作業中の当財団職員が、足湯シリエトク付近でシカ親子1組を目撃との情報あり。



キャンプ場内のイネ科草本は順調に伸長中だが、シカは全然誘引されず



自然教育研修所うらにまいた乾草には、シカが採食した痕跡がまったく認められない

5月20日
(火)
①

13:00-16:20

1名



・H26 シカ年度以降の森林管理局エゾシカ捕獲事業の実施予定地に関する、希少猛禽類専門家対象現地検討会①（参加委員1名）への同行、車両運転、説明補助、旅費・謝金支払い等

5月20日(火)
②

16:20-18:00

1名



- ・自動捕獲装置のメンテナンス
- ・誘引用通路作りのためのササ刈り作業（落とし扉前～プリンスホテル従業員駐車場）

※14:00頃、ウトロ中島の（株）ユートピア敷地内でシカ5頭の目撃情報あり。

5月21日(水)

9:50-12:30

1名





- ・ウトロ林道にて車両通行の支障となっているハンノキ類の横枝落とし（許可済み）
- ・餌まき誘引作業：上記ハンノキ横枝をキャンプ場へ運搬、囲いワナ周辺に配置（ピックアップトラック 1 台の荷台満杯分）

- ・囲いワナ周辺の痕跡確認
- ・自動捕獲装置のメンテナンス（再起動、再設定、再稼働）
- ・自動撮影カメラの SD カード交換
- ・ウトロ市街地防鹿熊柵内エゾシカ分布調査



5月26日（月）

14:10-15:40

2名



※調査中のシカ目撃 12 頭（オス袋角 1 頭、メス成獣 6 頭、0 歳 3 頭）。
目撃場所はキャンプ場から離れた足湯シリエトク～ホテル知床付近の草地のみ。

<p>5 月 28 日（水） ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・香川坂西側斜面林内のシカ痕跡調査 ・ウトロ香川周辺エゾシカ分布調査
<p>8:40-9:10</p>	<p>※冬期間に定着していたエゾシカによるものと推測されるササのやや古い食痕や糞を大量に確認。新しい痕跡は認められず。</p>
<p>2 名</p>	<p>※知床第一ホテル敷地内（北西側の植え込み内）に採食中のオス袋角 2 頭を目視。</p>

<p>5月28日(水)</p> <p>②11:00-12:30 2名</p> <p>③14:30-15:30 1名</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・自動捕獲装置の電源オフ (林野庁請負業者によるキャンプ場敷地内の枯損木等の伐採作業実施に伴い、電線を一時撤去するため) ・5/30 実施予定の市街地柵内定着シカ追い込み捕獲の準備作業 (囲いワナ落とし扉への誘導用ネットの試し張りおよびネット支点用のロープ張り) ・自動撮影カメラ1台(囲いワナ落とし扉付近)の撤去 (枯損木伐採作業の支障となるため)
---	--

<p>5月29日(木)</p> <p>11:30-12:20</p> <p>1名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5/30 実施予定の市街地柵内定着シカ追い込み捕獲の準備作業 (土地所有者および自治会関係者へ監督職員と共に挨拶まわり)
--	---

5月30日(金)

①
9:00-12:10

30名





・大人数による市街地柵内定着シカの追い込み捕獲作業実施

※メス成獣 1 頭を捕獲。暗箱部内まで追い込み。

(左記の作業人数には森林管理局から参加の 8 名は含まれていない)

5 月 30 日 (金)

②

16:30-16:50

5 名



・午前に捕獲したメス成獣 1 頭の搬出・運搬作業を実施。

※自動捕獲装置停止、**捕獲待機状態終了**。

(落とし扉を吊るワイヤーが午前の作業で破損し、代替品のさらに太いワイヤーはすぐに準備できなかったため)

※本事業の囲いワナによるエゾシカ捕獲許可の期限：5 月 31 日



6月6日(金)

8:40-12:40

2名



・H26 シカ年度以降の森林管理局エゾシカ捕獲事業の実施予定地に関する、希少猛禽類専門家対象現地検討会①(参加委員3名)への同行、車両運転、説明補助、旅費・謝金支払い等

6月10日(火) 11:30-12:00 1名	・研修所裏の自動撮影カメラ撤去
-------------------------------	-----------------

林野庁 北海道森林管理局 請負事業

事業名：平成 25 年度 網走南部署斜里地区 鳥獣被害対策エゾシカ捕獲事業
第 1 号その 1

事業期間：平成 26 (2014) 年 4 月 17 日～6 月 10 日 (平成 25 年度補正)

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村

字岩宇別 531 番地

知床自然センター内

TEL : 0152-24-2114

